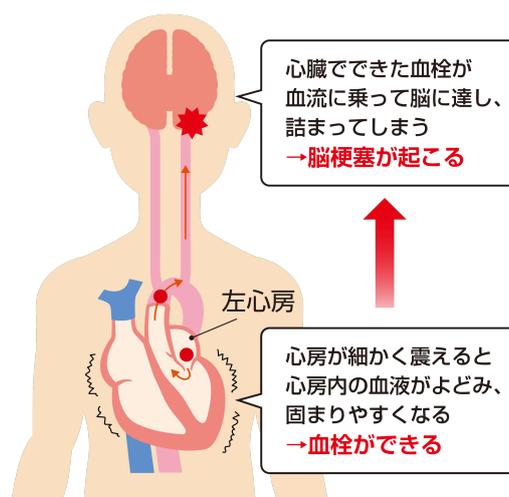


心房細動とは

心房細動とは心房が細かく震えて痙攣している状態で、不整脈の一種です。心房細動になると動悸、めまい、脱力感、息切れといった症状がおこりますが、全く自覚症状を感じない人もいます。初期には時々短い発作がおきる程度ですが、次第に発作の頻度が増えて止まりにくくなり、最終的に慢性化する性質があります。心房細動は動悸などの自覚症状で困るだけでなく、脳梗塞などを引き起こすため、必ず治療が必要な不整脈です。心房細動がおきると心房内の血液がよどんで血の塊である「血栓」ができやすくなり、血栓がはがれて脳まで運ばれ、脳の血管につまると脳梗塞を発症してしまいます。血栓は太い血管をふさぐので大きな脳梗塞となり、半身麻痺をきたして介護が必要になることが多く、最悪の場合には命を落とすことがあります。



治療

心房細動に対しての治療は、まず血栓を作りにくくする抗凝固薬です。血栓ができやすくなる因子として、心不全、高血圧、高齢（75歳以上）、糖尿病、過去に脳梗塞になったことがあるの5項目があり、おおまかにはこのうち1つでも満たせば抗凝固薬をのんだ方がよいとされています。

心房細動に初めてなった人や頻度の少ない人は、まず抗不整脈薬で心房細動になるのを防ぎます。何種類かの薬を試しても心房細動になるのを防げない場合は、心拍数が速くなりすぎないように調整する治療に切り替えます。心房細動になってしばらくは動悸が気になる場合が多いですが、慢性化してしまうと動悸はあまり感じなくなってきました。慢性の心房細動になっても、血栓予防さえしっかりやっておけば日常生活に支障はありません。

心房細動を完全に治す治療としてカテーテルアブレーションがあります。足の付け根の血管からカテーテルを入れ、心房細動の原因となる電気刺激が発生する肺静脈の周囲を電気が流れないように焼いてしまう治療で、治療の成功率は90%以上です。この治療がうまくいけば一生抗凝固薬や抗不整脈薬をのむわずらわしさから解放されます。この治療ができるかどうかは心房細動になってからの年数や、心臓の状態によって決まるので、外来でご相談ください。

心房細動で大切なのは発症を予防すること、早期に診断すること、適切に治療を行うことです。規則正しい生活をこころがけ、定期的な検査をおこなっていきましょう。